# 2024

## 嘉悦大学大学院

### ビジネス創造研究科
### ビジネス創造専攻

［ 博士前期課程・博士後期課程 ］

# Kaetsu Graduate School of Business Innovation

嘉悦大学大学院ビジネス創造研究科 研究科長　滑川 光裕

# 独自のカリキュラムと研究指導体制に加え、幅広い研究領域の存在と社会人や留学生などの多彩な学生により、広い視野からの研究を促す大学院

本学大学院は、2008年に大学院修士課程（当時の名称、現在は博士前期課程）から始まり、ビジネス創造研究科の名称通り、企業研究（主に中小企業）を中心に、その周辺学問である、税務・会計・環境・情報という幅広い学術領域を取り込んで開設されました。そして、2010年には大学院博士後期課程も開設しました。その間、多数の修士号、博士号を取得した修了生を輩出し、政財界や他大学教員など、幅広い分野・場所で活躍しています。現在は、政策分野も取り入れ、「マネジメント領域」、「政策・税務・会計領域」、「情報領域」という幅広い３領域を設定しすることで、多彩な研究・教育の場を世の中に提供しています。

本研究科における研究対象は、世界や日本での諸問題です。現在、世界や日本では、いままでにない大きな変化が起きつつあります。例を幾つか挙げると、世界では、世界人口の増加から幾度となく懸念されていた深刻なパンデミックにより、医療はもとより経済・流通などへ大きな影響を与えています。また、地球温暖化による環境問題により豪雨や強風（台風や竜巻）などの異常な気象現象が多発しています。さらには、2022年２月に突然始まった軍事侵略は食料やエネルギー資源問題を中心に、貿易や難民問題など幅広い影響を与えています。日本を見ても、国の借金や中小企業支援、雇用などの諸問題を受けたゼロ金利政策維持と諸外国のインフレ対策による金利上昇との金利格差による円安問題があり、また、先進諸国の中でも突出している少子高齢化が労働力人口や社会保障制度などへ深刻な影響があるなど、様々な大きな問題が起こっています。

これとは逆に、ICT技術の発展・普及が、人類に貢献しています。オンラインバンキング、ネットショッピング、オンライン会議システムなど、スマホやタブレットさえあれば、いつでも、どこでも、面倒な手続きがなく、便利なサービスを受けることができるようになりました。今後、マイナンバーカードによる免許証や保険証の集約、まだ制約があるもののオンライン医療診断など、より便利・快適な社会が構築されつつあります。さらには、AI技術やビッグデータ技術の動向も見逃せません。ただ、これらの人類に貢献する新しい技術は、逆に様々な新たな課題を生み出し、その問題解決も必要となります。

このような世の中の様々な変化により生まれる諸問題を数値データや論理面から分析し、幅広い技術を適用することによって、新たな知見を得て、ビジネス創造に役立てることが本学大学院の使命です。冒頭に述べたように、本学大学院では幅広い領域にまたがる教授陣がおり、学生たちは、それらの幅広い視野・視点からの指導を受けることのできる「合同研究指導会」を年に2回受けることのできるように設定されています。そこでは、適切な研究課題の設定方法と諸問題のデータ分析と論理的な思考、さらには、独自の理論構築能力による課題解決など、学術研究の基本的な姿勢を学び、説得力のある成果を導き出す力を身につけます。博士後期課程においては、さらに独自性のある学術的知見を創出する研究能力を養成します。

そして、本学における教育の特徴として、講義形式によって理論知と実践知を融合する「ライブケース」があります。これは、複数の企業経営者に登壇してもらうことで、現場の生の声を聞き、大学院としての論理的な思考を行い、場合によっては、企業経営者から提示された経営課題の解決方法を学生が提案することで、現場での問題解決能力を養成するカリキュラムです。ビジネス創造研究科である本学教員の持つ実社会とのつながりと少人数制により実現した科目で、大学院開設以来、学生からも好評なカリキュラムとなっています。

また、学生募集においても、通常の学部からの進学者だけでなく、社会人学生や留学生など、幅広く募集を行うことで、幅広い学術領域の教員と相まって、研究の多様化を図っています。

嘉悦学園は2023年に創立120周年を迎える伝統の高等教育機関です。開学以来、実学教育を中心に指導のスキルを高めて参りました。その伝統の教育手法が最終的に、ビジネス創造という研究科名称のもと、実学研究の極みである大学院博士前期・博士後期課程まで充実させることができました。

みなさんも、この理想的な研究・教育環境で学術研究能力を磨きましょう。

Profile

東洋大学工学部情報工学科卒業。東洋大学大学院博士後期課程修了。博士（工学）。専門分野は、情報システム学（システムシミュレーション）。
学部4年時から複数大学による共同研究プロジェクトMITRAM（交通渋滞解析のための微視的交通シミュレーション）のメンバーとなる。研究プロジェクトにおいて、データベース構築、データ分析、デジタルマッピング、ヒューマンインタフェース、並列コンピューティングなどの情報処理技術を用いた研究によるアルゴリズム構築・システム設計を行う。
学会活動では、モデリングとシミュレーション調査委員会幹事（電気学会）、バイオメディカル・ファジィ・システム学会事務局長などを歴任。現在は、バイオメディカル・ファジィ・システム学会理事、ファジィ科学シンポジウム（日本知能情報ファジィ学会ソフトサイエンス研究部会、バイオメディカルファジィシステム学会、ESA<教育システム解析>研究会の3団体共同主催）幹事。

## 社会人学生の修学も考慮した、特色ある授業スタイル（博士前期課程・博士後期課程共通）

### ［ 平日夜及び土曜昼夜の開講 ］対面またはオンラインについて受講生のご要望に可能な限り合わせる予定。

社会人学生が学びやすい研究環境を整えることを目的として、平日昼間のほか、平日夜間、土曜日昼夜間にも授業を開講しています。

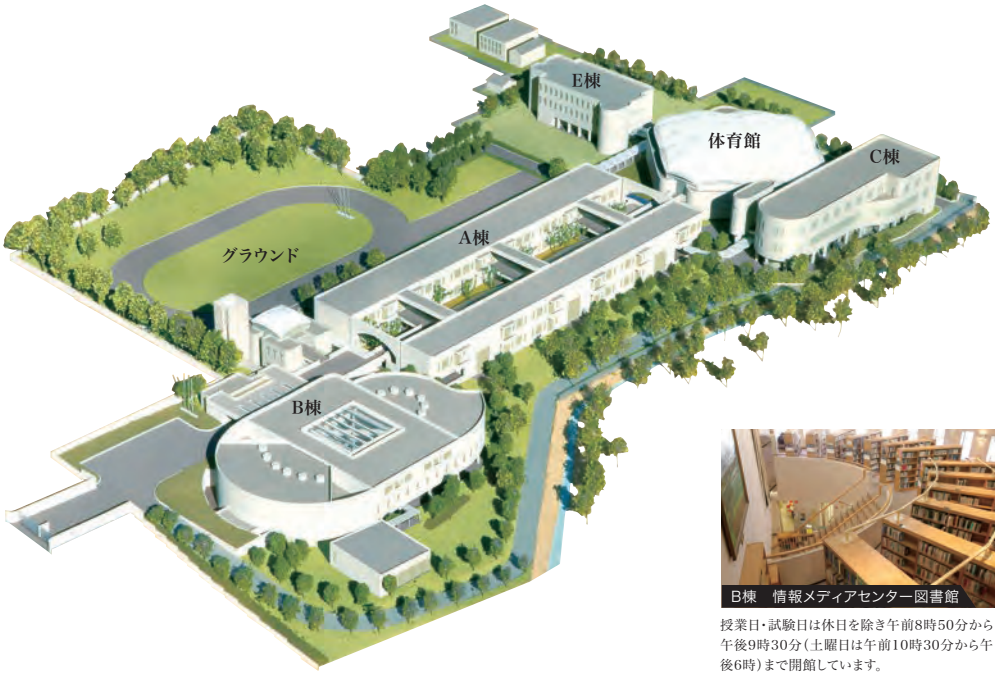
| 区分 | 昼間 | | | | | 夜間 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1時限 | 2時限 | 3時限 | 4時限 | 5時限 | 6時限 |
| 授業時間 | 9:00～10:40 | 10:50～12:30 | 13:00～14:40 | 14:50～16:30 | 16:40～18:20 | 18:30～20:10 |

### ［ 特殊講義（ライブケース）を開講 ］

主として中小企業経営者に講義をしていただくカリキュラムです。企業の創業、発展経緯、現下の課題、今後の経営戦略、企業家の楽しみと苦労などについてスピーチしていただくことにより、経営現場の生の状況に触れることができます。（隔週土曜日に開講）

# 研究のための施設と環境

キャンパス内は、緑豊かで静かに学べる環境です。
学内全体には無線LANを完備し、すべての教室でインターネットや学内データベースを利用できるなどICT環境が充実しており、多様な講義スタイルに対応できるようになっています。
さらに情報メディアセンター（図書館）では、膨大な研究・教育資料から瞬時に求める蔵書やデジタル情報を入手できる情報検索システムを有しており、効率よく学修できる環境となっています。
また、C棟2Fのオープンスペース（通称：ラウンジ）は、PCやプリンタも整備され、自由に研究活動が行える環境を整備しています。



C棟

C棟3Fは、大学院専用の教室と研究室を備えています。

C棟2Fラウンジ

パソコン設備も完備された、落ち着いた雰囲気のラウンジ。


B棟　情報メディアセンター図書館

授業日・試験日は休日を除き午前8時50分から午後9時30分（土曜日は午前10時30分から午後6時）まで開館しています。

C棟3F院生研究室

個人専用スペースとミーティングコーナー、書架等を備えた大学院専用の研究室。

# 国税庁現職による直接指導。税理士試験科目の一部免除に対応（博士前期課程）

国税庁現職らによる税理士試験科目免除（税法科目・会計科目）に対応した丁寧な論文指導で、高度な専門知識が修得できます。

## ［ 税理士試験科目の一部免除（税法科目・会計学科目）に対応 ］

政策・税務・会計領域の研究指導教授のもと、税法または会計学に係わる研究の修士論文を作成し、国税審議会の承認を得れば、税理士試験科目の一部免除（税法科目であれば2科目、会計学科目であれば1科目）が受けられます。なお、その際には、税法科目・会計学科目のうち、いずれか1科目に合格していることが必要です。

# 学費等・奨学金

## ［ 学費等 ］（2023年度実績）※初年度納入額

| 項　目 | 入学手続時 | 3　月 | 10　月 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|
| 入学金 | – | – | – | – |
| 授業料 | 50,000円 | 250,000円 | 300,000円 | 600,000円 |
| 設備費 | – | 144,000円 | 144,000円 | 288,000円 |
| 環境衛生暖房費 | – | 48,000円 | 48,000円 | 96,000円 |
| 合　計 | 50,000円 | 442,000円 | 492,000円 | 984,000円 |

**教育訓練給付金制度**

本学の大学院博士前期課程は、「一般教育訓練給付制度厚生労働大臣指定講座」です。給付を受けるには一定の条件があります。制度の詳細については、ハローワークにお問い合わせください。

## ［ 奨学金 ］

日本学生支援機構（2023年度実績）
学業成績が優秀で、経済的に就学が困難な学生に対して学資を貸与し、社会に有為な人材を育成することを目的とした奨学制度です。この奨学金は貸与ですので、原則として大学院修了後、所定の方法で返還しなければなりません。

| | 第一種奨学金 | 第二種奨学金 |
|---|---|---|
| 貸与月額 | 博士前期課程<br>50,000 円または88,000 円（選択）<br>博士後期課程<br>80,000 円または122,000 円（選択） | 希望により次の5 種類から選択<br>50,000 円・80,000 円・100,000 円・130,000 円・150,000 円のいずれか |
| 備　考 | 無利息 | 年利3%を上限とする利息付<br>（在学中は無利息） |

その他、私費外国人留学生対象の私費外国人留学生学習奨励費があります。
※2024年度の募集などの詳細は、入学後にお知らせします。

# ■博士前期課程〈学位：修士（経営管理）〉

## 税務・会計とマーケティングを柱に「戦略・政策研究」を特色とする経営大学院として、「実践知」重視の研究教育を展開します。

博士前期課程では、税務・会計とマーケティングを中心に経営組織における戦略・政策立案スキルを養うべく、
経営・経済に関する本格的な研究活動を行うことが出来ます。
税務・会計については学園開学以来の一貫した強みがあります。
実社会におけるデータを分析し、問題解決を図るICTの研究も行っています。

## カリキュラムと特色

### 1 経営経済に関連する広範囲な科目を中心とした編成

設置科目は、受講者の多様なニーズに応えうるよう多岐にわたっています。
具体的には、現在直面している経営環境に適応すべく、事業の中核機能となるマーケティングや経営戦略、そして社会的な要請を受けての政策（公共経営）など、経営経済に関する科目が広範囲に用意されています。

### 2 ナレッジ系科目とワークショップ系科目（※）

**ナレッジ系**　下記の4領域で構成されます。既存の学問成果だけでなく、企業や地域などの現場で発生している事実や知識を「実践知」として重視することにより、新たな学術的発見の基盤を醸成します。

| | |
|---|---|
| 基盤領域 | マネジメント、政策・税務・会計、情報の各領域の基盤的な科目によって構成されています。 |
| マネジメント領域 | 戦略とは何か、戦略はいかにあるべきかなど、営利・非営利を問わず、組織経営の効果的運営および激変する経営環境への適応を研究する科目群です。 |
| 政策・税務・会計領域 | 経営組織が効果的に計画・実行する必要のある政策および税務・会計に関する科目群です。 |
| 情報領域 | 高度情報化社会の中で、経営組織に求められる社会情報の基盤技術・知識を修得する科目群です。 |

**ワークショップ系**　事例研究・フィールドワークなどにより、受講者自身に直接「実践知」を発見・吸収する機会を与え、革新的な学術成果を生み出す能力を養います。

| | |
|---|---|
| 研究指導 | 修士論文または特定課題研究成果の完成を目的とする科目です。（※） |
| プロジェクト | 様々な専門的知識を融合させて、企業や地域コミュニティなどが直面している課題について実際に解決アイデアを立案・提案する科目です。 |
| 特殊講義（ライブケース） | 企業経営者をはじめとする現場からの生の声に触れることを通じて、実践知を取り入れる科目です。 |
| リテラシー養成演習 | 大学院において論文を作成する際に必要不可欠なリテラシーを養うことを目指し、文献収集スキル、データ等分析および論理構成・文章作成スキルの醸成に焦点を当て、課題レポートを完成させる科目です。 |

（※）研究指導 I、II、III、及び IVの4科目計4単位及び特殊講義（ライブケース）2単位並びにナレッジ系科目の基盤領域科目2科目4単位以上を含め30単位以上の修得が必要です。ただし、修士論文に代えて特定課題研究についての研究の成果を志望する者は、38単位以上の修得とします。

## 教育目標・人材育成の狙い

**教育目標**　経済・経営の活性化への寄与を目的として、主にマネジメント（経営管理）分野で、実践知に根ざす学術研究能力を持つ人材の育成を目指します。特に、既存の学問成果を踏まえつつ、経済・経営の革新という問題意識に立って、実践知、すなわち経営などの実際の現場から発生している新たな事実や知を取り入れた教育を行い、学問の革新を図ります。

**主な研究分野**　マーケティング戦略の研究、公共政策に関する研究、企業経営に対する専門サービス（税理・会計や先端的な情報技術）の研究、中小企業全般に関する研究など。

**入学対象者**　学部生をはじめ、企業従事者、企業後継者、企業支援業務従事者（コンサルタント、行政および公的機関職員、中小企業診断士、税理士、地域おこしのリーダー）、東アジアからの留学生など。

**税理士試験の科目免除（税法科目・会計学科目）に対応**　政策・税務・会計領域の研究指導教授のもと、税法または会計学に係わる研究の修士論文を作成し、国税審議会の承認を得れば、税理士試験科目の一部免除（税法科目であれば2科目、会計学科目であれば1科目）が受けられます。なお、その際には、税法科目・会計学科目のうち、いずれか1科目に合格していることが必要です。

## 研究指導担当教授および開講科目一覧

| 区分 | 領域 | 指導教授 | 研究指導の内容 |
|---|---|---|---|
| ナレッジ系 | マネジメント領域 | 劉　暢 | 産業政策と企業活動との関係が持続的な産業発展にどのように寄与するかを検討し、産業政策の研究分析に必要とされる総合能力を高める。 |
| | | 遠藤 ひとみ | 経営学の基礎知識や代表的理論が、複雑化する現代社会の様々な経営的事象にどのように応用されているかを学び、またそれらの限界やあらたなる可能性に関して考察していく。研究指導では修士論文のテーマ設定や構成、問題意識、問題解明のための理論構築、論文の書き方などの研究指導を行う。 |
| | | 上原 聡 | マーケティング理論の獲得と同時に、理論の実際の経営における実践を体系的に学びながら、各自のマーケティング研究における問題意識を養い、主要テーマを探求することを目指していく。特に心理学的なアプローチおよ び文化論的アプローチに重点をおきつつ、新たなマーケティング課題を検討することとなる。 |
| | | 設置科目 | 中小企業論研究（中小企業の役割）※<br>中小企業論研究（日本とアジアの中小企業）<br>経営戦略概論（理論の応用とグローバル展開）<br>経営管理論（理論的基礎）※<br>経営管理論（経営管理研究）<br>マーケティング研究（消費者行動と企業の戦略）<br>マーケティング研究（マーケティングとサイコロジー）<br>財務管理論研究（コーポレートファイナンス）<br>財務管理論研究（中小企業財務）<br>人事労務管理論研究（企業経営と人材マネジメント）<br>人事労務管理論研究（企業経営と人材開発）<br>事事業創造論（起業と企業家・イノベーション）※<br>産業政策（市場経済と産業政策）<br>産業政策（日中産業政策の比較）<br>戦略コンサルティング実践 |
| | 政策・税務・会計領域 | 田村 英好 | 税法に関する論文作成の基本と応用について指導する。なお、指導においては、必要に応じて、理論と実務の両面からのアプローチも取り入れる。 |
| | | 真鍋 雅史 | 経済政策、財政政策、租税政策分野全般に関する文献サーベイを踏まえ、各自の関心分野で理論面あるいは実証面から分析を試み、政策的含意を導出することまでの指導を行う。 |
| | | 井上 行忠 | 財務会計における修士論文およびその他（リサーチペーパー等）の作成の指導を行う。具体的には、修士論文のテーマ設定や論文の構成方法、注や参考文献の表記などの形式面の諸規則、論文を作成するための基本的知識を修得するとともに、数多くの論文を読みこなし、自作の論文を作成するための知識を修得する。 |
| | | 高橋 洋一 | 税政策や公会計を含めた財政分野全般について、内外の文献整理方法、税理論・公会計・マクロ経済など学際的観点からの実務・理論・実証面での多角的アプローチ、各自の関心に応じた実際の政策に応用可能な政策インプリケーションまでを指導する。 |
| | | 設置科目 | 財政論（国家と市場）<br>公共政策論（ミクロ経済学理論）※<br>公共政策論（マクロ経済学理論）<br>税務研究（国際課税政策）<br>租税論（租税政策）<br>租税法研究（法人税法）※<br>租税法研究（所得税法）<br>税務政策論研究（所得税政策）<br>税務政策論研究（法人税政策）<br>財務会計論研究（財務諸表論）<br>財務会計論研究（財務諸表の理論的基礎） |
| | 情報領域 | 滑川 光裕 | システムシミュレーションやファジィ理論、遺伝的アルゴリズムなどの情報システム学に関する理論により、新たなビジネス創造あるいは既存のビジネスの効率性向上に役立てるための研究に関する指導を行う。 |
| | | 設置科目 | 経営情報システム論※<br>社会システム概論<br>データマイニング特論<br>創造支援情報論 |
| ワークショップ系 | | 設置科目 | 研究指導I<br>研究指導II<br>研究指導III<br>研究指導IV<br>プロジェクト<br>特殊講義（ライブケース）<br>リテラシー養成演習 |

（注）授業科目欄の※印は、マネジメント、政策・税務・会計及び情報の各領域における基盤的科目（基盤領域科目）を示します。

（2023年4月時点）

# ■博士後期課程〈学位：博士（経営管理）〉

## 前期課程の「実践知」を基に新たな理論を創造できる、より高度な研究者の育成を目指します。

博士後期課程では、博士前期課程で培った「実践知」に根ざす学術研究能力を基盤に、
既存理論の豊富化や新たな理論構築を行うことにより、学問体系を刷新しうる研究者能力、あるいは理論を適用して、
現実に関する新たな理解や政策的価値のある結論を導きうる研究者能力の醸成に努めます。
活動の高度化を目指す社会人にも門戸を広げます。

## カリキュラムと特色

### 1 3つの学問領域

「マネジメント領域」「政策・税務・会計領域」「情報領域」で編成されます。
いずれの領域においても企業経営を研究教育の焦点にして、新たな学術的価値を創造しうる研究者能力の養成を図ります。

### 2 指導教授およびアドバイザリー教授による複数教員による指導体制

研究指導は、指導教授及びアドバイザリー教授1～2名の複数教員による指導体制で行います。

### 3 科目編成（※）

| | |
|---|---|
| 研究指導 | 博士論文の完成を目的として作成指導を行います。さらに、理論を中心に先行研究に関する講義にも力を注ぎます。<br>上記の3つの学問領域に配置された研究指導科目から1科目を選択し、1～3年次にわたり継続して履修します。（※） |
| 特殊講義（ライブケース） | 中小企業経営者などによる経営現場の状況報告を基に授業を行うもので、経営現場から生まれた実践知を吸収し、博士論文の作成に役立てることを目的とします。 |
| 特殊講義特論 | 「特殊講義（ライブケース）」で得られた現場発の情報を、理論的にいかに理解すべきか、その現場情報を基にすると既存理論をどのような方向に発展できるかなどを研究するもので、「特殊講義（ライブケース）」に連続した科目です。<br>「実践知」と「理論」を架橋する能力の育成を目指します。 |

（※）博士後期課程の修了は、3年以上在学し、所定の授業科目について16単位を修得し、かつ博士論文審査及び最終試験に合格することが要件です。

## 教育目標・人材育成の狙い

| | |
|---|---|
| 教育目標 | 高度な研究者能力、すなわち「実践知」を基に新たな理論を創造できる研究者の育成に努め、本研究科が日本における総合的な企業経営研究の拠点となることを目指しています。 |
| 人材育成の狙い | 大学、シンクタンクなど、専門研究機関で中心的な役割を担いうる人材を育成します。<br>また、アジア経済の健全な発展に寄与する中国からの留学生なども対象に、アジア地域の指導的な研究者を育成することを目指します。 |
| 入学対象者 | 学内・学外学生、企業従事者、中小企業支援業務従事者（行政および公的機関職員、弁護士、中小企業診断士、税理士、地域おこしのリーダー）、東アジアからの留学生など。 |

# 研究指導担当教授および開講科目一覧

## 研究指導担当教授

| 科目 | 領域 | 指導教授 | 研究指導の内容 |
|---|---|---|---|
| 研究指導Ⅰ | マネジメント領域 | 上原　聡 | マーケティング関連分野の博士論文を完成させるために必要となる、最新のマーケティング研究の動向を整理し理論を習得するとともに理論構築能力の養成を目指す。 |
| 研究指導Ⅱ | 政策・税務・会計領域 | 真鍋 雅史 | 経済財政政策関連の博士論文の作成指導を行う。日本の経済財政政策の系譜と背景、経済理論及び財政理論との関係、租税法及び行政法から見た整理、諸外国の改革の潮流との関係、消費者行動、企業行動との対応、金融行政、地方行政、医療看護政策、交流航空政策等との対応などが主たる関心領域となる。 |
| 研究指導Ⅲ | 情報領域 | 滑川 光裕 | 情報ベンチャーなどの中小企業で利用される情報システムに関する博士論文の作成指導を行う。ファジィ理論、ソシオメトリー分析、クラスター分析、遺伝的アルゴリズム、システムシミュレーション、地理情報システムなどが主たる関心領域となる。 |

(注)研究指導は、1・2・3年次の通年配当の12単位とする。

(2023年4月時点)

## アドバイザリー教授

| | |
|---|---|
| 井上 行忠 | 嘉悦大学大学院ビジネス創造研究科教授<br>専門分野：財務会計 |
| 劉　暢 | 嘉悦大学大学院ビジネス創造研究科教授<br>専門分野：産業政策論、比較経済論 |
| 飯野 幸江 | 嘉悦大学大学院ビジネス創造研究科教授<br>専門分野：会計学 |
| 宇佐美 宗勝 | 嘉悦大学大学院ビジネス創造研究科教授<br>専門分野：公共経済学・交通経済学・マーケティング |
| 明山 健師 | 嘉悦大学大学院ビジネス創造研究科准教授<br>専門分野：経営学 |

(2023年4月時点)

## 共通設置科目

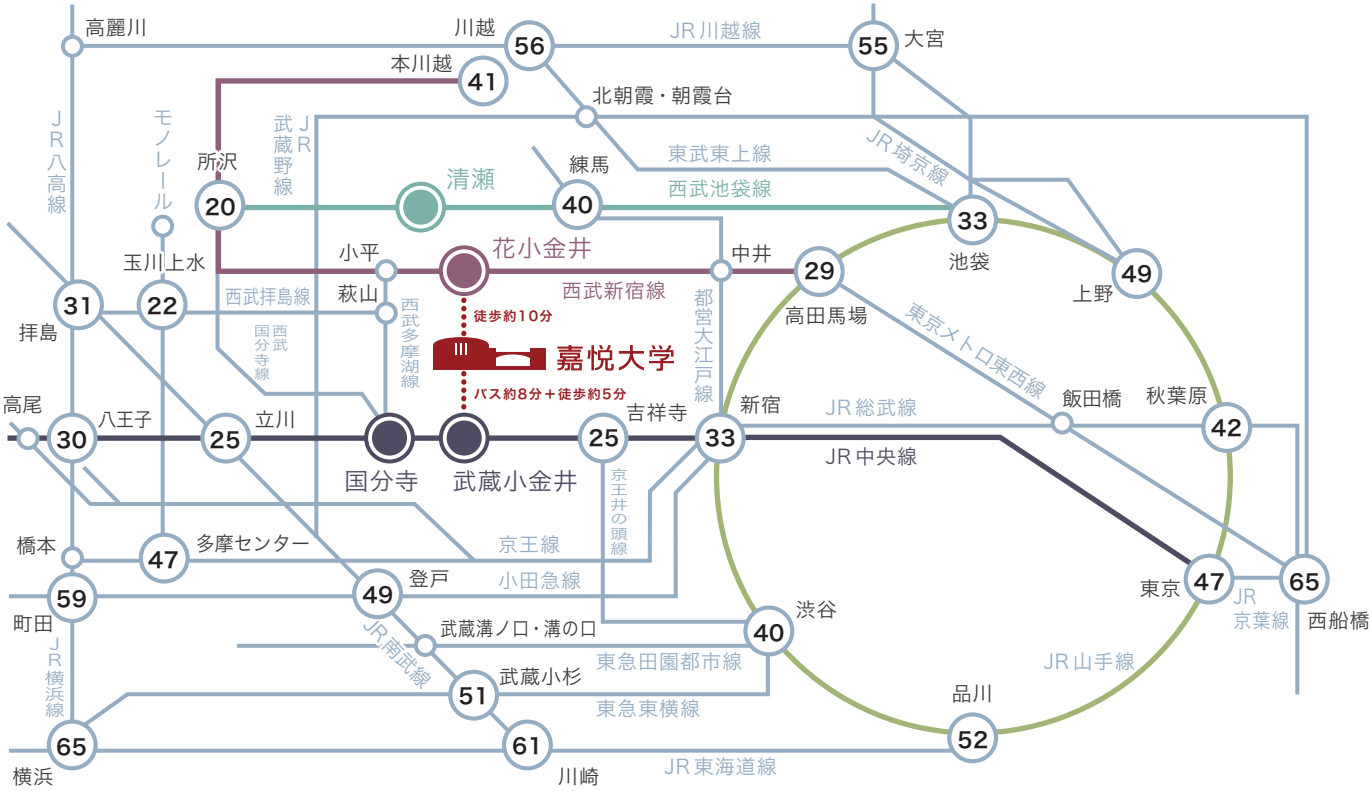
| 授業科目 | 講義の内容 |
|---|---|
| 特殊講義（ライブケース） | 主として中小企業経営者に、企業の創業、発展経緯、現下の課題、今後の経営戦略、企業家の楽しみと苦労などについてスピーチしてもらう。これによって受講者は、経営環境の厳しい変化や経営資源の不足と闘っている経営現場の生々しい状況を知ることができる。また、企業家という職業の実態にも触れられる。経営者のスピーチを行い、さらに質疑応答の時間を設けることで、受講者参加型の授業とする。授業は担当教員のコーディネートによって進行し、担当教員のとりまとめをもって終了する。受講者は経営上の注目点に関するレポートを提出する。博士前期課程との共通科目であり、隔週実施する。 |
| 特殊講義特論 | 「特殊講義」では経営者のスピーチから経営上の注目点に関するレポートをまとめる。本授業ではこのレポートを基に、中小企業の発展性の原動力は何であるか、またその発展性を妨げる問題にはどのようなものがあるかを討論し、中小企業の発展性と問題性に関する理論的な解釈を深める。これにより受講者は経営現場から得られた「実践知」を「理論」へ架橋する能力をつけることができる。隔週、通年実施する。 |

(2023年4月時点)

## ACCESS

**首都圏のビジネス最前線エリアからも近いので、仕事をしながらでも無理なく通えます。**

西東京に広がる武蔵野の自然が残る美しい街「小平・花小金井」にキャンパスがあります。
西武新宿線「高田馬場」駅から大学まで29分と都心から近く、緑豊かな清々しい環境です。



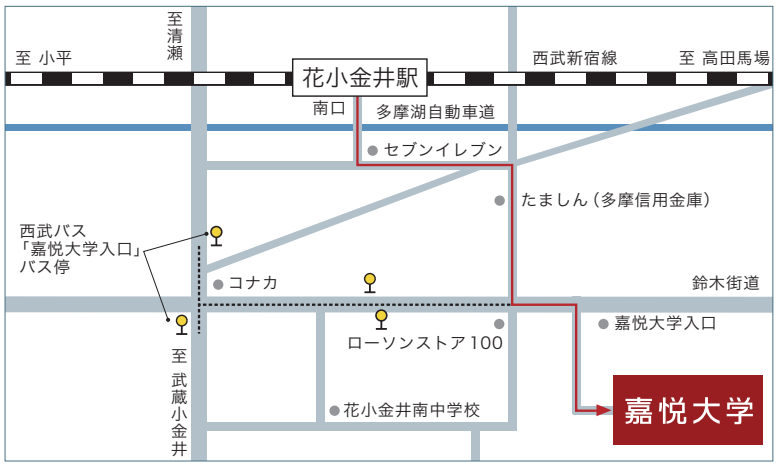

◉ 西武新宿線 高田馬場駅から **29分**（19分+徒歩10分）　◉ 西武新宿線・西武池袋線 所沢駅から **20分**（10分+徒歩10分）

- 西武新宿線 花小金井駅 徒歩（約10分）
- JR中央線 武蔵小金井駅 バス（約8分）+徒歩（約5分）
- JR中央線 国分寺駅 バス（約20分）+徒歩（約3分）
- 西武池袋線 清瀬駅 バス（約20分）+徒歩（約5分）

円内の数字は
本学までの所要時間［分］（目安）
乗換・待ち時間は含まれません

所要時間の短い時間を
優先としています

### 「花小金井」駅と「バス停」からの徒歩ルート




### 「武蔵小金井」駅 西武バス乗り場

2番・3番バス停から発車するバスなら
どれに乗っても大丈夫です。


嘉悦大学
KAETSU UNIVERSITY

**大学院ビジネス創造研究科** 博士前期課程・博士後期課程
〒187-8578　東京都小平市花小金井南町2-8-4
TEL:042-466-3711（代表）　URL https://www.kaetsu.ac.jp/
**大学院に関するお問い合わせ［アドミッションセンター］**
**TEL:0120-970-800　E-Mail:kikitai@kaetsu.ac.jp**


202307